

兵庫県図書館協会会報第 100 号の発行にあたって

兵庫県図書館協会会長・兵庫県立図書館館長 垣内 秀敏



協会報第 100 号を迎えるにあたり、会員、関係者各位に心から御礼を申し上げます。

兵庫県図書館協会は、昭和 6 (1931) 年 11 月 6 日に県会議事堂において兵庫県学務部社会教育課を事務局

として発足、第二次世界大戦下の昭和 17 (1942) 年に活動を休止したものの、戦後すぐに再建を目指す動きが始まり、昭和 24 (1949) 年 7 月に神戸市立図書館を事務局として再発足しました。昭和 49 (1974) 年 10 月に兵庫県立図書館開館後、昭和 51 (1976) 年 6 月より当館に事務局を移し、お陰様で昨年 11 月に 80 周年を迎えました。

本会の会報は、昭和 25 (1950) 年 6 月に、図書館法制定の大きな期待を背景に、「兵庫縣図書館協會報」として発行されました。しかし、第 26 号 (1958 年) を最後に兵庫県学校図書館協議会の独立を機に途絶えたものの、昭和 52 (1977) 年 10 月に復刊第 1 号として発行され、以来第 100 号を迎えるに至りました。復刊後の 30 余年に及ぶ長い年月の間、玉稿を寄せられ、あるいは貴重なご指導ご助言を賜り、本会報を温かくはぐくみ育てて頂いた諸先輩方、会員、関係者各位に改めてここに厚く御礼を申し上げます。

さて、当館で保存しています会報の綴りに目を通しますと、その紙面はまさにその時代の社会の動きであり、図書館界の歴史を表しています。

復刊第 1 号を見てみますと、図書資料の貸出方式が

ようやくコンピュータに切り替わり始めたという話題があり、隔世の感ひとしおと言ったところでは、図書館相互の連携と協力に関する記事が大きく取り上げられており、30 年前の図書館界の課題が今なお切実な今日的課題になっていると感じます。

ところで、文部科学省では「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」の改正を予定しています。今回の改正では、知識基盤社会の進展の中で、図書館は地域の情報拠点として重要な役割を担っていることを踏まえ、図書館サービスを地域の課題（医療・健康・雇用等）に対応した施策と結びつけて実施することや、行政支援・学校教育支援・ビジネス支援等の各ニーズに的確に対応したレファレンスサービスを実施することが盛り込むべき内容として検討されており、社会の変化や新たな課題への対応が求められています。また、図書館は公立図書館、学校図書館のみならず行政機関等の関係機関との連携を強化し、人々の支え合いと活気ある社会づくりに向けて、地域の実情に応じた幅広い観点から社会貢献することも期待されています。

本会報は、各加盟館の地域や住民にとって有為な図書館として存在意義を確立するための取り組みや協会活動の状況・成果等を関係機関に周知することを目的に発行されています。そして、各市町図書館や専門図書館、公民館図書室等の運営に意義ある会報をめざすとともに、各加盟館を結ぶ有効なパイプでありたいと願っております。

兵庫県図書館協会会報第 100 号の発行を機に、本会報の一層の充実を図って参りますので、引き続き関係各位の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

開館10年目をターニングポイントに…

篠山市立中央図書館長 赤松一也（あかまつ かずや）

中央図書館に配属になり3年目を迎え、館長としての船出は今年から…。ときおりしも、今年は篠山市立図書館（中央図書館・市民センター図書コーナー）が開館して10年という節目の年を迎えています。

当館では、この節目の年を記念して、篠山市が目指すまちづくりの方向性の一つである「農都篠山」や、篠山市の新しいまちづくり資源として注目している「太古の生きもの」をテーマにした特別企画展を開催しました。嬉しいことに、その特別企画展の会期初日、10月3日には、中央図書館の来館者が150万人を突破し、記念のセレモニーも開催することができました。

私は、図書館には情報発信・共有、交流などいろいろな可能性が秘められており、まさに、まちづくりの情報拠点だと強く感じています。開館10年という節目の年を当館のターニングポイントとして、司書たちの協力を得ながら、そして、知恵を出し合いながら、未来につながるような新しい図書館づくりに向けた航海の舵を、しっかりと取っていきたいと心新たにしているところです。

図書館で働いて3年・・・

芦屋市立図書館 大下祥子（おおしも しょうこ）

私は図書館に異動してきて3年目になり、現在は雑誌の受入や相互協力、児童担当などをしています。

異動してきた当初にくらべると、すこしは慣れてきましたが、まだまだ右往左往していることが多々あり、皆に助けられながら毎日の仕事をしています。

自分が利用者側にいた頃は、図書館の仕事というとカウンターの業務だけしかわかりませんでした。でも実際には、利用者からの希望本を何度も書庫や開架に探しに行くのに体力が必要ですし、カウンター内の返却・貸出・登録・レファレンス以外に、本の発注・受入・整理・除籍・物流の処理・相互貸借の処理、ほかにも図書館行事の準備などがあり、その運動量と仕事の種類の多さに驚かされました。

大変な仕事ではありますが、利用者の読みたい本を見つけ出して無事に手渡せた時、嬉しそうな笑顔を見せてくれるので、こちら嬉しくなり元気になります。

これからも本と人をつなぐことによって、喜んでもらえるよう、毎日勉強しながら頑張っている図書館の仕事をしていきたいと思っています。

尼崎市立図書館での3年

尼崎市立中央図書館 平井紫乃（ひらい しの）

司書として尼崎市立図書館に勤務して3年目。奥の深い仕事に、現在も発見の毎日です。

まず2年間は北図書館で勤務し、特に2年目の指定管理者の導入に際しては、指定管理者である北図書館で仕事をする貴重な経験の中で、同スタッフの利用者へのアプローチなど多くを学ばせていただきました。また、直営勤務として障がい者サービスを担当できたことで、不特定多数の利用者を個人としても認識するようになり、個人個人に応じた対応の重要性を痛感しました。多くの録音図書が利用される実情からは、障がい者サービスの必要性と的確なニーズの把握、より利用しやすい図書館の環境作りについて考えさせられました。

そして今年度は中央図書館で公民館図書室など22施設への配本業務を担当しています。この業務は市内全域の図書館利用状況に触れられる半面、本館から離れた場所での利用者サービスゆえに戸惑いを持つことも多くあります。まだまだ未熟な私ですが、これからも常に学ぶ姿勢を忘れず仕事に励みたいと思います。

県立図書館の司書として

兵庫県立図書館 橋立真由美（はしだて まゆみ）

新採用で配属されてから15年、ずっと兵庫県立図書館に在籍しています。この間には様々な出来事がありました。平成11（1999）年にHALネット（ひょうご図書館情報ネットワーク）が導入され、今年1月のシステム更新で3代目になりました。県内図書館横断検索ができるようになり、平成13（2001）年からは協力貸出に加えて直接貸出を始め、2代目のHALネットでは個人からのインターネット予約・在住地受取ができるようになりました。

近年は厳しい予算の中、ほしい資料も満足に買えない状況で、市町立図書館からの購入リクエストにはご期待に添えない面もあります。巡回で市町立図書館を訪問すると、少ない人員でカウンター業務、選書、展示、イベント等様々な業務をこなされている様子を見聞きし感心するばかりです。

子ども読書支援、学校支援、郷土資料のデジタル化等重要課題が山積みですが、県立図書館の司書として、利用者サービスと市町立図書館の支援に何ができるか考えていきたいと思っています。

伊丹市立図書館（ことば蔵）－「公園のような図書館」の開館－

平成 24 (2012) 年 7 月 1 日、伊丹市立図書館（愛称：ことば蔵）が移転開館しました。「誰もが気軽に訪れて交流することができる公園のような図書館」をコンセプトに、手狭になった旧図書館からの移転により強化された図書館機能、人と人がふれあい・語り合い・学ぶことのできる交流機能、江戸期の酒蔵や町家が残る「伊丹郷町」の歴史、文化を発信・体感する機能の 3 つを基本機能としています。

開館にあわせ、名誉館長に市内在住の作家田辺聖子氏に就任いただき、ことばと読書を大切にす教育の拠点として、また、図書館の持つ集客力による中心市街地の活性化の役割も担っていきます。



「ことば蔵」外観

【旧館に比べ、規模が 2.5 倍。新たな機能で年間開館時間は 1.2 倍に】

酒蔵をモチーフにした建物は地下 1 階、地上 4 階建てで延べ面積は約 6,000 m²、規模は旧館の約 2.5 倍になっています。開架書架は 2、3 階にあり、約 15 万冊を収納しています。地下 1 階には 25 万冊収納可能な自動書庫を設置、新館開館にあわせて蔵書管理をバーコードから IC タグに代え、新たに自動貸出機・返却機も導入、これら IC 化により曝書期間の短縮を図るなど効率的な図書館運営を目指しています。また、開館時間も平日 2 時間、土日祝日 1 時間延長、曝書期間の短縮とあわせ、年間開館時間を 1.2 倍に増やしています。

他にも市内の高校生が選書し、コーディネートする「ヤングアダルトコーナー」や、田辺聖子氏と、同じく伊丹在住の作家宮本輝氏の現在購入できる書籍約 280 点を壁面に展示し、図書館等の連携協定を結んでいる両氏の出身大学、大阪樟蔭女子大学の田辺聖子文学館と追手門学院大学の宮本輝ミュージアムの所蔵する資料やパネルなどを紹介する「伊丹作家コーナー」も設置しました。

【ことば蔵の事業は】

「おはなし会」や「おたのしみ会」などの旧館で行われていた事業はもちろん、新たにことば蔵のいろいろな事について市民と一緒に考える「運営会議」(*)を設置し、さまざまな事業を企画・実施しています。

たとえば、本の書評を言い合う「ビブリオバトル」、自分だけのオリジナル本を作る「ZINE 講座」、まちの人たちが講師を務める「まちゼミ」、自身のおススメ本を持参して他の人の本と取り替える「カエホン棚」の設置など、運営会議の承認を得て個人・グループが行うイベントなど盛りだくさんの内容となっています。

【伊丹の図書館の歴史】

ことば蔵のある伊丹市宮ノ前界隈は、古くは戦国武将荒木村重の居城・有岡城の北の防御砦があり、江戸期には「伊丹郷町」と呼ばれ、酒づくりを主産業として繁栄しましたが、今から 100 年前の明治 45 (1912) 年、この地に私立の「伊丹図書館」が開設されました。

その当時、兵庫県下の図書館は公私あわせて 17 館、阪神間では神戸市立図書館（同 44 年開館）と伊丹図書館の 2 館でした。図書の閲覧・貸出は無料、大正 3 (1914) 年からは巡回文庫を始め、昭和 11 (1936) 年には県下の公私立 74 館中第 2 位の蔵書数を誇りましたが、同 18 年に閉館となり、その際蔵書 4 万冊は伊丹市に寄贈されました。

戦後、同 26 年に行基町（今の市立伊丹高等学校敷地内）に市立図書館が開設され、同 47 年に千僧（現市役所東側）に移転しました。そして今年 7 月、最初の「伊丹図書館」が建てられた宮ノ前の地に戻り、新たにオープンすることになりました。

このように、伊丹の図書館の歴史は 1 世紀前から今日まで連続と続いているのです。

(*) 運営会議とは

1 階交流スペースについて、その活用策やルール作りにむけて「ことば蔵運営会議」を設置し、出入り自由の月 2 回の会議で考えていきます。

運営会議は以下の姿勢で進められています。

- 公園のようにオープンな図書館をめざそう
- 誰もが参加できる学びの場にしよう
- 図書館だからこそできることを考えよう
- 利用のルールはゆるやかに動きながら考えよう

図書館の広域利用について

—阪神地区公共図書館協議会の活動—

宝塚市立中央図書館長 坊 則正

阪神公共図書館協議会は、阪神地区内の公共図書館等が連携を密にして、各図書館業務の発展向上に寄与することを目的として、昭和 41 (1966) 年 10 月に発足しました。

発足当初は、図書館業務を自動車文庫の巡回で運営するなど公共図書館が設置されていない市町もあり、本会運営についての懸案事項も山積していたようです。

一方、阪神地域には、昭和 36 (1961) 年に阪神広域行政都市協議会が設立され、広域行政の運営が着実に進展、住民の間には「阪神はひとつ」との思いも高まっていました。こうした中、各市町の住民の熱意が多くの人々の心を動かし、阪神地域図書館の結束と相互協力体制の礎を築きあげたものと推測します。

本会活動の主なものは、「図書資料の相互貸借」、「図書館の広域利用」、及び調査研究活動です。なかでも注目を集めた取り組みは、平成 3 (1991) 年度から導入した「図書館の広域利用」です。これは本協議会に加盟する各市町住民は、自らの住所地以外の加盟市町すべての図書館が提供するサービスをともに享受できるという画期的な取り組みです。

実施にあたっては、図書館の立地状況等から派生する諸課題もありました。しかし、こうした課題も踏まえ早期に実施できたのは、ひとつには「阪神はひとつ」との住民の機運の高まり、ふたつには昭和 63 (1988) 年に設立された阪神広域行政圏協議会の実施事業のひとつに掲げられていたこと、そして図書館の運営に携わる者が「国民の知る自由（権利）を保障する」という崇高な精神を大切にしてきたことに尽きるのではないのでしょうか。

広域利用への当時の反響は大きく、今も多くの方に利用され大変喜ばれています。住所地以外の自治体図書館への利用登録者は、当初 9,129 人だったのが、平成 23 (2011) 年度末には、約 13 倍の 116,159 人を数えるにいたりました。

また、平成 6 (1994) 年には、「図書資料の相互貸借」等を物流面で支えるためにメール車を運行するなど、本会の活動は順調に進んでいます。今後は効率的な図書館サービスの提供と、さらに多くの人々が図書館を利用できる仕組みづくりの検討が必要だと考えます。

淡路図書館等連絡協議会の活動

淡路市立津名図書館 齋栄仁美

淡路図書館等連絡協議会は、淡路島内の図書館・図書室相互の連絡提携及び協力・図書館等の発展振興を促進するとともに、図書館等職員の教養・資質の向上を図ることを目的として、平成 5 (1993) 年に設立されました。

会の主な活動内容は、次の 3 点です。

①毎月第 2 金曜日、会長をつとめる図書館が淡路島内の図書館・図書室間で相互貸借する資料を配送します。

②月に 1 回定例会を開きます。場所は淡路市と南あわじ市の中間地である洲本市の洲本図書館で行います。定例会では情報交換や相互貸借の資料とそれぞれの市の広報誌を持ち寄り交換しています。

③年に 2 回研修会を開きます。兵庫県立図書館等から講師を招いて講義を受けます。内容は選書、接遇、本の修理等さまざまです。講義のテーマについて日頃から疑問に思っていることを講師に質問します。また他館の対応を聞いたり、自館の状況を説明したりして、共に学んだことをそれぞれの館に持ち帰り、図書館等の運営や図書館職員のレベルアップに役立てています。先進地の図書館への見学研修会もあり、昨年度は篠山市立中央図書館を見学しました。



このような活動を通じて職員同士の交流も自然にできていて、何か困ったことがあるときなど市を越えて気軽に相談できる関係でもあります。

会が発足しておよそ 20 年。市町村合併により、淡路島内 1 市 10 町だったのが、洲本市・南あわじ市・淡路市の 3 市になりました。その間にも平成 8 (1996) 年に南淡図書館、平成 9 (1997) 年に東浦図書館、平成 10 (1998) 年に洲本図書館、平成 14 (2002) 年に五色図書館が新築され、今では 6 館となりました。図書館と協力して業務にあたる公民館図書室は 5 室です。

これからも 3 市で助け合い、補いあい、協力しあって、これまで以上によりよい図書館をめざしていく協議会にしていきたいと思っています。

川西市立中央図書館「源氏資料」

川西市立中央図書館の調査相談室では、郷土・行政資料コーナーを設け、川西の郷土資料（川西に関わる資料や歴史資料）や行政資料（川西市・兵庫県発行資料または官公庁発行資料）を所蔵しています。なかでも清和源氏に関わる資料は「源氏資料」として扱い、収集に努めています。

歴史を遡ること平安中期、安和元年（968年）第56代清和天皇のひ孫である源満仲（みつなか）公が、市の中部に位置する多田の地を本拠地に定めて開発し、強力な武士集団を形成、その勢力を拡大していきました。さらに天禄元年（970年）には多田神社の前身である多田院を建立。これらの事柄によって川西市は清和源氏発祥の地とされています。



資料の一部をご紹介しますと、『清和源氏 740 氏族系図』（展望社）『多田満仲公伝』（多田神社）『源満仲・頼光』（ミネルヴァ書房）を始めとする満仲ゆかりの資料から『源氏—武門の覇者』（新人物往来社）など、広く源氏に関する資料があります。それぞれ市花リンドウをイメージした紫色のシールを貼りつけて配架しています。

ところで、当市のシンボル・キャラクター「きんたくん」をご存知でしょうか。満仲の子・頼光（よりみつ）の家来である四天王の一人に、坂田金時（幼名金太郎）という人物がいたとされており、そのお墓が本市の満願寺と小童寺にあります。子どもからお年寄りまで広く親しまれている金太郎。3年程前から、この金太郎関連の資料収集も始めたことから、「源氏資料」に広がりが出てきています。

職員研修「親と子のふれあいを図書館から
～0・1・2歳児の育ちとあそび～」
開催日：平成24（2012）年9月12日（水）
会場：播磨町立図書館
講師：岡寿子氏 元大阪府立中央図書館
児童サービスボランティア

図書館での「0・1・2歳を対象としたおはなし会」でもっと親子のスキンシップ（ふれあい）を深めるお手伝いがしたい、という思いで研修を企画しました。

岡先生は、乳幼児には育ちに応じた遊びが必要であり、そのためには0歳児・1歳児・2歳児の遊びの特徴をふまえた、体を使った遊びを行うことが大切であり、あかちゃんにとって一番いいおもちゃは人間の体であるというお話をいただきました。

そしていよいよ実践です。笑顔で、目を合わせてゆっくりはつきり、五感を総動員して、顔遊び『ゆらゆらトントン』、スキンシップ『だっこしてキュー』、ゆさぶりあそび『おひざのおうま』など、あつという間の楽しい2時間でした。

きっと今日のあそびはおはなし会で大活躍してくれることでしょう。参加者は24人でした。

（播磨町立図書館長 前川 千陽）

東播磨地区図書館等連絡協議会職員研修会 「電子書籍と公共図書館」

開催日：平成24（2012）年9月26日（水）
会場：明石市立図書館
講師：沢辺 均氏（出版デジタル機構製作部門
／電子図書館モデル担当）

講演は、出版流通の現状と電子出版物の状況、電子図書館を考えたときの基本的なことについて幅広く事例を交えお話いただきました。

電子図書館になり、図書館に行くのは、本を借りるのではなく別の価値のためである。そこで図書館員は何をすべきかをよく考えなければならない。例えば、身の回りの何でもない資料などを収集し、提供していくということ。さらには、図書館員のITリテラシーのためにも、スマートフォンやフェイスブックなどを知る必要があるという示唆をいただきました。

講演のあと、県立図書館の宮本博、熊野清子両氏に「兵庫県内図書館の情勢報告」をいただき、有意義な研修会となりました。参加者は42人でした。

（明石市立図書館長 豊田千代子）

兵庫県内図書館の動き（平成24（2012）年）

兵庫県立図書館

- ・図書館システムの更新（1月）
- ・国立国会図書館公開「歴史的音源」館内提供（1月）
- ・震災資料横断検索にデータ提供（3月）

神戸市立中央図書館 100周年(1911年11月10日開館)

- ・『神戸市立図書館100年史』刊行（3月）
- ・貴重資料デジタルアーカイブズインターネット公開（3月）
- －新長田 「しんながた図書館だより」創刊（3月）
- －垂水 大型絵本架の増設（3月）
- －灘・垂水・西 指定管理者の更新（4月）
- －兵庫 YAコーナー設置（5月）
- －東灘 2013年秋移転に向けて指定管理者募集（9月）

西宮市立図書館

- ・来館困難市民へ宅配による貸出サービス拡充（7月）
- －北口 開館時間の変更（9時開館に）（4月）

伊丹市立図書館

- ・新図書館「ことば蔵」移転新築開館（7月）
- ・開館時間の変更（平日20時、土日祝日18時閉館に）
- ・ICタグ、自動貸出機、返却機、自動化書庫の導入、インターネットデータベースの情報提供開始（7月）

川西市立中央図書館

- ・マルチメディアデジタイズ図書貸出開始（4月）
- ・エプロンシアターの団体への貸出開始（4月）

宝塚市立図書館

- ・来館困難市民に図書の無料郵送貸出開始（6月）

三田市立図書館

- ・図書館システムの更新（4月）
- ・大型絵本の寄贈受入（4月）

猪名川町立図書館

- ・町内在住者へインターネット予約サービス開始（10月）

明石市立図書館

- ・指定管理者の更新（4月）
- ・明石駅前再開発ビルへ移転に向けて「市民図書館のあり方検討委員会」発足（5月）

高砂市立図書館

- ・新図書館基本設計開始（6月）

稲美町立図書館 20周年（1992年11月開館）

- ・記念講演会「携帯・ゲーム機に潜むわな」（8月）

播磨町立図書館 30周年（1982年12月開館）

- ・記念事業「絵本ライブ・長谷川義史」（6月）
- ・児童書コーナーに読書スペース設置（4月）
- ・授乳室設置（4月）

加西市立図書館

- ・図書館システムの更新（3月）
- ・貸出期間の延長可能に（3月）
- ・インターネット利用パソコン4台を更新（3月）
- ・総務部から教育委員会に所管変更（4月）

三木市立図書館

- ・2015年移転開館へ向け「新設図書館建設検討委員会」設置、「第2次図書館活性化構想」公表（6月）

西脇市立図書館

- ・茜が丘複合施設へ2015年移転の方針公表（6月）

加東市立図書館

- ・図書館システム更新（2月）

多可町立図書館

- ・図書館協議会「多可町図書館基本計画」答申（3月）

姫路市立図書館

- －青山 空調機器取替工事のため休館（10月）
- －香寺 空調機器取替等工事のため休館（9～11月）

福崎町立図書館

- ・開館時間の変更（土・日・祝日は18時閉館）（4月）

相生市立図書館

- ・耐震補強工事のため臨時休館（4～9月）

赤穂市立図書館

- ・子ども読書推進計画策定（2月）
- ・図書館システム更新（10月）

宍粟市立図書館

- ・移動図書館車「ささゆり号」更新（3月）

太子町立図書館

- ・中川李枝子講演会「本に会う、人に会う」（9月）

新温泉町立加藤文太郎記念図書館

- ・インターネットによる図書予約サービス開始（7月）

香美町立村岡区中央公民館

- ・移動図書館車「やまなみ」更新（2月）

丹波市立市島図書館

- ・浸水被害のため臨時休館（1/20～3/31）

篠山市立中央図書館 10周年（2003年4月開館）

- ・携帯用端末(iPad)導入、地域資料電子化開始（4月）
- ・「サピエ」に加入、デジタイズ図書作成開始（6月）
- ・「篠山市立図書館ビジョン」策定（10月）
- ・10周年記念講演（講師：清水真砂子）（11月）

洲本市立五色図書館 10周年（2002年7月開館）

- ・開館10周年記念講演会（7月）

南あわじ市南淡図書館

- ・DVD・ビデオの貸出開始（4月）
- ・館内での視聴を1人2回から1回に変更（4月）

兵庫県図書館協会会報 No.100

平成24（2012）年11月1日発行

編集・発行：兵庫県図書館協会

〒673-8533 明石市明石公園1-27

兵庫県立図書館内

Tel 078-918-3366 Fax 078-918-2500

E-mail:hyoto_hyotokyo@library.pref.hyogo.lg.jp